

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。

読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月）を踏まえた各大学の判断となる。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和5年度共通テストについては、昨年度までに実施した共通テストの結果も踏まえ、問題形式や内容を分析し、各大問で測るべき言語能力を検証した上で、それらの能力を様々な方法で問うことができるよう配慮した。また、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等も英語とした。

第2問のように、概要や要点を把握することに加えて、推測したり、事実と意見を整理したりしながら読む問題、第3問のように、イラストや写真などの視覚情報を参考にして、概要・展開を把握する問題、第4問のように、複数の情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題など、思考力・判断力・表現力等を測れるような問題作成を工夫した。また、試験全体を第1問～第6問の6つの大問で構成することを継承し、セクション数（中間を含む）は10、総解答数49、配

点2～3点という構成内容で出題した。

第1問 Aは、簡単な語句や平易で短い文で書かれているマニュアルを読み、情報を理解する力を測る。ここでは城を紹介する音声ガイド装置の説明について読む。問1では、この装置が対応可能な質問を選択し、問2では、クーポンを得るためには何を必要とするかを読み取る。Bは、短編国際映画祭で最終候補に残った4つの映画についての紹介を読む。問1は日曜日の夕方に見ることが可能な映画を、問2は映画祭最終日の夜に開催されるイベントを、問3は映画祭全体について正確に把握する能力を測っている。いずれの問いにおいても、選択肢が英文中の語から言い換えられており、単に選択肢の英語を英文の中から探すような読みでは正解にたどり着けない問題である。難易度は適切で識別力も比較的高い問題が多かった。

第2問 Aは、簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれている説明を読み、その概要や要点を把握したり、また、事実と意見を整理しながら情報を読み取る力を測る。ここでは、交換留学生が書いた新しいタイプの財布の特徴や利点と財布の使用者のコメントを読み、事実と意見を区別する力が求められている。Bではイギリスでの英語学習経験に関する記事を読む。問1～問3は筆者がイギリスで体験したことについて、本文全体の概要把握を必要とする。また問4と問5は筆者が経験した事実と意見を正確に読み取ることが求められている。AとB共にイギリス英語を用いたが、違和感なく読めたものと思われる。

第3問 比較的平易で短い文で書かれている説明を読み、その概要や要点を把握したり、推測したり、また、事実と意見を整理しながら情報を読み取ったりする力を測る。Aは鯉を飼っている留学生が書いた鯉に関する記事を読み、筆者の鯉に関する問い、鯉を飼い始めた理由、その鯉の体長や現況、ゴースト・カーブの特徴など様々な情報を正確に把握する力を問う出題であった。Bはプレゼンテーション・スキルを向上させることに成功した大学生のエッセイを読む。問1は出来事を時系列に並べ換える問題、問2では筆者に変化をもたらした要因を捉え、問3は、筆者がどのように変化したのかを本文全体から読み取ることが求められる問題であった。必要な情報を読み取り、直接書かれていないものを推測する力が問われている。A、B共にイギリス英語を用いている。全般的に識別力は比較的高い問題であった。

第4問 平易な英語で書かれた3つのメールの情報を比較しながら、情報を理解する力を問う。ここでは、コミュニティ・ガーデンのレイアウトや野菜を植えるスケジュールに関するメールを題材としている。菜園の運営について、3名でのメールのやり取りを読み、情報を整理し考えることが求められている。個別のメールを把握することを基礎とし、それらの共通点や相違点などをつかむことが問われている。例えば問4では、メールの情報を整理し、野菜の“相性”を示すイラストを選ぶことが求められている。メールの情報を整理し、理解することが求められており、思考力や判断力を要する問題である。

第5問 平易な英語で書かれた物語を読み、その概要を把握する力を問う。英語の授業でクラスに紹介する物語を読む設定としており、ここでは芸術家を目指すLucyが絵を描く上で大事なことを学んだという物語を読む。問1ではLucyとお父さんとの関係、問2ではLucyにどのような出来事が起こったかを整理し、時系列に並べて物語の展開の理解度を問う内容となった。問3では、芸術家としてLucyの成功の要因を2つ選択し、問4はLucyの特定場面での気持ちを汲み取り、問5ではなぜこの物語を紹介しようと思ったのかを選択する問題である。問題の難易度はやや高かったが、総じて識別力が高い問題が多かった。

第6問 身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事を読んで文章の論理展開を把握したり、概要や要点、情報を整理したり、要約する力を問う問題である。Aは、記事の概要をまと

めた内容に関するクイズを作成する場面設定で、人間と海洋生物のコミュニケーションに関する記事を読む。問1～問3を通して、与えられたメモを完成するためには、文章全体の論理展開を考えたり、概要を把握したりする力が求められる。問4は本文にふさわしくないイラストを選択する問題で、本文の概要・要点や論理展開の把握が必要である。またBは、グラフィックという物質に関して、発表用のポスターを作成するために記事を読む場面設定である。問1はポスターを作成する上で不要な情報を探し出し、問2はグラフィックを作成する過程を完成させるものである。問3はグラフィックの特徴を問う問題であるが、本文全体にわたる情報の整理が不可欠となる。問4は将来のこの物質の用途を、問5は筆者の意図を推測するものであった。難易度は高かったものの本文全体の内容を把握する力が求められる問題であった。

### 3 出題に対する反響・意見についての見解

各方面からはおおむね肯定的なコメントが得られた。特に高等学校教科担当教員（以下「高校教員」という。）からは、「実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして適切であった」、また「様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題、課題の解決策を考える問題、複数の情報からそれぞれの要点や書き手の主張等を読み取り比較する問題、情報を整理してまとめたり書かれたことを基に推論したりする問題など、思考力・判断力・表現力等を測る問題となるよう工夫がなされているとともに、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている」など、高い評価を得た。

各大問、中間での出題内容について、教育研究団体からは、第2問の新しいタイプの財布に関する場面設定について、「同時代的で、現代のコミュニケーション場面を想定しているものであり好ましい」、第5問は、「場面設定としてはディスカッションでの発表をするというものであるが、英文自体は体温を感じる物語風のものであり、今後もこのような英文が扱われることを期待したい」との意見も得た。

高校教員からは、「財布という具体物からキャッシュレスという概念へと発展する可能性を感じる問題文だけでなく、問1の『どのような質問をしたと思うか』という問いや、問5の『さらに知りたいこと』を尋ねる問いは、自ら問いを発し探究する学習者を育てるという高等学校教育の方向性にも合致している」、また、第4問は「複数の種類の野菜の栽培について相談する内容のメールを基に、菜園の準備という共通のゴールを持ち、必要な行動を検討する過程を扱っており、具体的なコミュニケーションの発展性を感じる良問である」など、今後の授業への良い意味での波及効果が示唆されている。

一方で高校教員からは、概要・要点の把握や必要な情報の読み取りに留まることなく、その先にある、書き手の意図を深く捉えたり、自分なりの意見や主張を相手に応じて適切に伝えたりする力も評価できるような問題を出題するよう要望もあった。

日常生活においては、目的に応じた読み方が求められる。例えば情報を探し読みしたり、インターネットで調べものをするような場合には、英文を一字一句読むのではなく、必要な情報を短時間で把握することが必要となる。またペーパーバックや新聞などを読んで楽しむ場合でも、一定のスピードが必要なことは変わらない。共通テストでは、それぞれのタスクに応じたスピードで英語を理解することを念頭に、読む目的を明確にし「その場で読み取る」能力の測定をしていることを今一度強調したい。

## 4 ま と め

センター試験の「英語（筆記）」同様、「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であり、各方面からの関心が高い。特に、共通テストにおいては、平成21年告示の学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、「英語（リーディング）」は、大学教育の基礎力となる知識・技能の理解を問うのみならず、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを重視し、一方で大問ごとにCEFRのA1からB1レベルまで難易度を設定し、幅広い受験者層に対応できる問題構成としている。各大問の指示文では、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況を設定し、より現実的な場面に即したリーディング問題となったと考える。

リーディングは、たくさんの情報をより多く頭に入れることではなく、それらの情報を頭の中で整理して深く理解し、必要に応じて考え、活用することである。また、テストにおいてたとえ同じ力を測る場合でも、その方法は多岐にわたる。受験者には日ごろから様々なタイプの英文に触れ、目的や場面に応じた問いかけに柔軟に対応できるリーディングの力を付けることを意識してほしい。本問題作成部会のような理念が教育現場に良い波及効果をもたらし、英語のコミュニケーション能力育成に役立てることができれば幸いである。